

令和2年度第4回北名古屋市行政改革推進委員会 会議録

○ 会議概要

1 議題

事務事業の見直しについて

<事務局>

(1) 令和2年度事務事業の見直しについての説明

<会長>

新聞報道を見て、行政改革推進委員会の委員としては非常に驚いたと思う。私は市外在住だからよいが、市内在住の委員は参画していた行政改革推進委員会でこんなことを議論していたのかと市民に思われてしまう恐れがあると感じた。行政改革推進委員会として見直し方針について検討し、了としてきたが、事務事業の削減の大部分は予算編成時の市長裁定で決まったことと理解してもらいたい。行政改革推進委員会としても今年度は答申を出さないということも議論したい。

<A委員>

西図書館が廃止されることについて、市民への相談なく決定したことやALTの削減など子どもの学びの機会を奪うような市とはどういうことだといった問い合わせが5、6件ほど来た。行政改革推進委員会の委員ならもっと早く知っていたんじゃないかと言われる方もいた。なぜもっと早く市民に諮らないのかと怒っていた。ご報告させていただく。

<B委員>

私自身これまでもこの委員会の位置づけについて疑問があった。これまで事務事業の見直しの方向性について議論してきた。この議論についてを否定するつもりはない。

昨年12月議会において桂川議員の質問に対して、市側の回答は「コロナの影響で令和3年度予算については、各部局が要求した額に対して12%削減、総額9億4500万円を削減する。」という内容であったと中日新聞で報道されたのを受けて、私は非常に驚いた。さらに、本日配布されている新聞記事において「前年度比5.1%減の緊縮予算」と報道された。記事の中には主な削減事業が記載されている。

財政的な面も含めて5年10年後を見据えた北名古屋の方向性を議論するのがこの行政改革推進委員会だと私は思っている。師勝町と西春町が合併して15年が経ち、西と東の施設の統合、例えば西図書館、東公民館の廃止というのも検討の一つであると言える。しかし、そもそも西庁舎と東庁舎の一本化はどうなっているのか。2つに分かれていることで生じる住民の不便さ、職員の移動の無駄等もこの委員会で切り込んでいくべきである。さらにシルバー人材センターや老人クラブといった未だに西と東に分かれている団体の統合はどうなっているのか。2つの町が合併して北名古屋市として一つになるのであれば、本気で全て統合すべきである。

財政難の根本的な理由は何かと考えた。コロナの影響は多少あるとはいえ、コロナが

理由であれば、全国すべての自治体が北名古屋市と同様の状態になっているはずである。北名古屋市特有の要因が潜んでいるはず。例えば、他市に先行した所得制限なしの高校生までの一律の医療費の無償化、幼稚園保育園の給食費の無料化、これらは令和4年度以降も財政面で多大なダメージを与え続けるものだと私は思っていた。これらの施策が出た時に北名古屋市は財政難になると予想していた。歳出の内容を見ると建設費が大幅に縮減されている。私自身東日本大震災の被害を受けた現場に何度も足を運んだ経験があるが、長瀬市長が言う「安心安全なまちづくり」を実現するための建設費を本当にこんなにも削減していいのか疑問に思う。再度丁寧な市民への説明や庁内での再議論をお願いしたい。6月補正で対応してもらえないか。

また、人件費についても述べさせていただきたい。先ほども申し上げたように財政難はコロナの影響は多少あるとはいえ、高校生までの医療費の無償化を始めとした北名古屋市の施策の問題が大きな要因であると言える。その「つけ」の一部を管理職手当の10%カットなどで補填するというのは間違った対応ではないか。北名古屋市の特別職の報酬は同規模の自治体と比較したうえで決定しているとのことだが、同規模の自治体で統括参事という職があるのは北名古屋市だけ。現在も岩越統括参事は余人をもって替えがたい人材であることは十分承知しているが、統括参事が他市にない役職であることから管理職手当の10%カットに手をつけるのであれば統括参事の廃止も併せて検討すべきではないか。

今後、最新の焼却機能を持った新しい焼却施設が稼働することになる。可燃ごみと不燃ごみを分別する必要があるか。一緒に燃やすことが可能であると理解している。ゴミ収集車の頻度や自治会へのごみ収集の補助等の経費の見直しも可能ではないか。焼却場が変わることで委託費の見直しはされているのか。切り込んでいくべき。市民もごみの分別が楽になる。

勝手な意見を言って申し訳ないが、5年10年先を見据えた議論を行政改革推進委員会で行うべきとして今後の進め方の参考にしていただければと思う。

<会長>

おっしゃるように、この行政改革推進委員会に課せられているものは5年10年後を見据えて北名古屋市の行財政がどうあるべきかを議論することである。事務事業見直しの方向性についてこれまで23事業が示され、了としてきた。しかし、それ以上に大きな削減が生じていて、5年10年の北名古屋市にとって良いものなのかというのは一度立ち止まって考えなくてはならないと思う。そのため、引き続きこの議論は進めていかなくてはならない。合併して15年が経ち、交付税の合併算定替えも終了する中、一つの自治体として自立できるようにはならなくてはいけない。合併の積み残しが多いのではという指摘もそのとおりであると言える。

<C委員>

削減できるところから削減したのかなという印象である。この削減がこれから育つ子どもたちや生活する私たちにどれほどの影響があるのかは数字だけでは計り知れない。

<会長>

名古屋市と隣接して若い世代の流入が多い北名古屋市。子育てしやすいまちという特性があったと思うが、今回その分野にも大きく切り込んでいる。

<C委員>

残念だなというのが正直な気持ち。若い世代が流出していってしまうのかなと感じた。西図書館の廃止の件は、合併当初であればもっと大きな反発があったかもしれないが、合併して15年も経っているので一部の市民からは「仕方ない」という意見もある。

<B委員>

西図書館について、いきなり廃止ということではなく補完的な機能を持たせたりもっと丁寧なやり方があったのではと感じる。

<会長>

今施設の話も出ているので先に資料2の説明をお願いします。

<事務局>

(2) 公共施設の適正配置に関する取組についての説明

<A委員>

ジャンボプールの「検討」というのは、温水プールができるから存続を含めた検討をしているという認識でよいか。

<事務局>

存続自体の検討をしている。計画の改訂を視野に入れ、方針については必要に応じて行政改革推進委員会に諮っていく。

<B委員>

保育園の民営化について、民間に移管して保育の質が保てるかが大事。市の方が良かったということではダメ。民間に渡したからもう手を離れたといったような乱暴なやり方ではなく、丁寧に進めなくてはならない。

ジャンボプールも娘を連れて自転車で行った思い出がある。無くなることは寂しいが、温水プールができるということで仕方ないと思う。温水プールまでの距離が遠い市民もいる。巡回バスを走らせる等市民がアクセスしやすいような対策を行ってほしい。

<D委員>

今回新聞の報道でショッキングな印象を受けた市民も多いと思う。しかし、厳しい言い方をすれば今に始まったことではない。コロナの影響もあるとはいえ、遅きに失したと言わざるを得ないと私は思っている。誰が悪いということではなく、新聞記事にもあるように長瀬市長が言う「市民の要望に応えることを優先してきた。」ということだと思う。北名古屋市特有の「東も西も」といった部分やこれから議論されるであろう「若い

も若きも」といった部分など全部やっていたらお金がなくなるのは当たり前。迅速かつ大胆な改革をするしかないと思う。

今回のこのショッキングな報道によって、財政的に危機的な状態であることを市民が知る良い機会になったとも言える。非常に厳しい財政状況の中でただ事業を削減するだけでは、魅力のない市になっていくだけ。若い世代、特に外からくる人が北名古屋市に住みたいと思えるようなまちであれば持続した運営は可能である。そういったことを踏まえて検討してほしい。

<会長>

政治的任命者にとっては高齢者に係る予算を削減することは非常に怖いことである。若い人は選挙に行かない。高齢者は票を持つ。今回の削減内容には高齢者に係る予算も削減されているため、よくやったとも言える。

<E委員>

かなりショッキングな記事であった。なかなか自治体がこういった形で公表することはできない。勇気がいること。

会社経営を例に出すとリーマンショックやコロナ等によって経営難に陥ったときに一番最初にやらなければいけないことは出費をできる限り抑えて建て直しの財源を確保すること。これは自治体においても同様だと思う。次の段階の立ち上がりに向けてどの事業に優先的に予算投下していくのか、そういったロードマップを準備しておかなくてはならない。苦しい状態の先に光を示すことができれば市民も納得してくれる部分があるかもしれない。立て直しに向けた計画を示すことで5年10年先を見据えた方向性を定めることができる。

<C委員>

余談ですが、少し明るい話を。名古屋駅周辺の会社に家族が勤めているが、異動に伴い、遠くから引っ越してくる社員がいる。この辺の土地を全く知らない社員たちが住む場所をいろいろと調べて選んだところ北名古屋市と清須市と名古屋市東区を候補に挙げていたとのことだった。北名古屋市を候補に選んでくれたことはとてもうれしいこと。今までやってきたことが広まってきているということでもある。

<F委員>

ごみの分別について、焼却場が高性能になっているため、ごみの分別をやめようという話は他の自治体でも出ている。しかし、話が出ては消え、出ては消えを繰り返すことが多い。ごみ袋を始めとして利権が深く絡んでいることが多く、脅迫めいたことを言われることもある。聖域なき見直しをしなくてはならないかもしれないが、相当肝を据えて取り組まなければならない。

行政においても提灯経営が必要。状況に応じて萎ませることは大事である。来年度たくさんの事業が廃止になったり、イベントが中止になったりしていると思う。やめるこ

とは簡単。事業やイベントを楽しみにしている市民がいる。がんばって復活させてほしい。

<事務局>

諮問と答申についての説明

予算編成から市議会が開催されるまでの間に成果報告と合わせて委員会としての答申を実施する予定で進めていたが、緊急事態宣言の発令を受け2月の会議をやむなく延期することとなった。今回の諮問は、成果物としての計画書の案を作り上げていくような、期限を定めたタイプの諮問ではないため、冒頭、会長からもお話があったが来年度も同じ内容で諮問を継続、来年度に答申を頂きたい。

<会長>

委員の皆さんご意見はありますか。

※委員了承

2 報告事項

<事務局>

第2次北名古屋市総合計画第1次実施計画及び第2期北名古屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について報告

<会長>

今回更新された2019年度の数値はコロナウイルスの影響は1月～3月に少しあるかどうか。来年度更新される2020年度の数値はコロナウイルスの影響を大きく受けることになる。指標をどのように整理するか考えていかななくてはならない。

3 その他

<事務局>

来年度の第一回委員会を5月ごろを予定している。日程調整は改めて連絡する。

<会長>

これにて委員会を閉会とする。

【閉会】

配布資料	<p>資料1 令和2年度の事務事業の見直し (参考資料1) 検討対象事業 (参考資料2) 検討状況 (参考資料3) 予算要求における主な見直し (参考資料4) 令和3年度当初予算における事業見直し一覧</p> <p>資料2 公共施設の適正配置に関する取組</p> <p>資料3 第1次実施計画取組指標進捗一覧表</p> <p>資料4 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略KPI進捗一覧表</p>
------	---